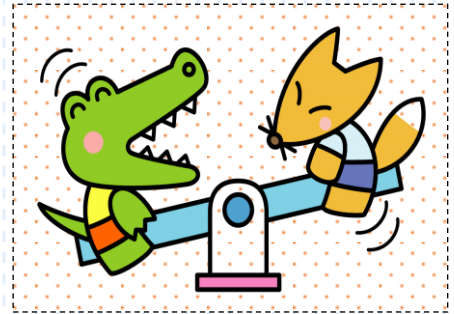


ひびきあい

当たり前だけど、すばらしい
 当たり前だから、すばらしい

校長 岡田 克己



毎週、朝会で話をします。朝礼台に立って全校の子どもたちを見渡します。一歩前に進んで「礼」をします。子どもたちも、黙って「礼」をします。礼をし終わって、「おはようございます」とあいさつを交わし合います。何気ない朝会の風景です。でも、ある学校では、いつまでもおしゃべりをしている子がいたり、ばらばらと遅れてくる子がいたりして、黙って礼ができないしあいさつもばらばらということがあのです。整然と朝会が行われるのは、先生たちがきちんと話を聞くことの大切さを指導し、子どもたちがその意味を理解して行動しているからです。

雨が降っている日、下駄箱の傘立てには、きちんとたたんでまとめられた傘が並んでいます。これも傘の始末の指導があり実行されているからできていることです。

二つのことを例に取り上げましたが、いくら学校のきまりで謳ってあっても、その意義がきちんと理解されていないと、きちんとできないのです。そんなの当たり前じゃないのと言う人もいますが、実は当たり前ではありません。あいさつにしたって礼儀にしたって傘の始末だって、教えられてできるようになっているのです。

子どもたちが苦手なこともあります。「廊下を歩く」ことです。大多数の子は静かに廊下を歩いています。走ると危険なことを理解しています。が、つい走ってしまう子が相変わらずいるのです。危険なことを理解していないわけではないのですが、その子にとっては「当たり前」になっていないのです。

人によって、「当たり前」の基準は違います。ついつい大人はそんなのできて当たり前と言ってしまうますが、改めて、学習の成果で「当たり前になった」ことの素晴らしさを認識したいと思った次第です。「当たり前」のことは、ほめる価値があるのです。そう考えると、ほめる種は、実はいっぱいあることに気づきます。

親や先生の一言で子どもは大きく変わります。一言ほめただけで心がうきうきし、明るくなるのが子どもなのです。一言のほめ言葉でも、子どもを励まし、育てることが出来ます。逆に、私たち大人が発する何気ない一言が、子どもの心に大きな衝撃の言葉として響くこともあります。まさに《魔法の一言》なのです。

もし親が、友だちや先生の悪口を言ったらどうなるのでしょうか？



5月8日(金) 15:00に、「学校説明会」を行います

今年度は、学校のいろいろな取組について、全職員で説明します。教職員、保護者、地域のみならず、創立123年になる新田小学校を守り育てていきたいと思っています。ぜひ、PTA総会とともに、ご参加ください。各学年の取組も話します。新田小学校の職員のチームワークのよさもご覧ください。